

自:2021年4月1日  
至:2022年3月31日



**NCAJ**  
National Camping Association of Japan

# 事業報告書 2021



「朝霧高原サマーキャンプ・フォローアッププログラム」のーコマ

**公益社団法人 日本キャンプ協会**

## 目 次

2021年度事業総括 .....	1
キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1） .....	2
1. 設立55周年記念事業	
2. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務	
3. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）	
4. 地域の関係団体との連携	
5. 他団体と共同で行う事業	
6. 国内外の情報収集と提供	
7. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～ビジョン2020からビジョン2025へ～	
8. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施	
9. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備	
よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2） .....	14
1. 公認指導者養成	
2. キャンプ指導者の審査・認定	
3. 指導者養成のためのテキスト発行	
4. 課程認定団体向け研修会	
5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会	
6. 課程認定団体の増強への取り組み	
7. 指導者養成制度改訂に向けた検討	
8. 教員免許状更新講習の実施	
キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3） .....	19
1. 第25回日本キャンプミーティングの開催	
2. 定期刊行物『キャンプ研究』	
3. 安全に関する啓発活動	
4. キャンプ白書2021	
法人事務 .....	22
1. 諸会議の開催	
2. 都道府県キャンプ協会との連携	
3. 日常法人業務	
4. 各種団体への協力・共催・後援	
設立55周年記念事業 特別表彰 .....	26
CAMPING AWARD 2021 受賞者 .....	27
公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 役員 .....	34
公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 運営委員 .....	35
日本キャンプ協会事務局職員・静岡県立朝霧野外活動センター職員 .....	37

## 2021 年度事業総括

1966年に設立された日本キャンプ協会は、2021年度に協会設立55周年を迎えました。しかしながら、ウイズコロナの時代が重なり、記念行事やイベント、講習会、研修会等、予定していた多くの主催事業は変更や中止を余儀なくされました。記念すべき年に予定していた事業が実施できなかったことは誠に残念でしたが、こうした状況下においても、可能な限り今できることに集中し、多くの関係者の協力を得ながら、記念の年に相応しい協会運営を行うことができた1年となりました。

### <設立55周年記念事業>

当初は静岡県立朝霧野外活動センターに集い、記念行事を開催する予定でしたが、オミクロン株の感染ピークと重なりオンライン大会に変更になりました。しかし、オンラインの特性を活かし、全国から多くの関係者が集い、再会を果たし交流を深めることができました。記念事業として5年に一度発行する『キャンプ白書』は2022年3月に刊行しました。『キャンプ白書2021』では、過去と現在のキャンプ動向の分析と評価、新型コロナウイルス感染症に対する国内外の対策等を公開することができました。

### <キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）>

公益目的事業1は、感染が続くコロナ禍の対応のために、様々な情報発信と支援を継続して実施しました。会報誌CAMPINGは、コロナ禍におけるキャンプのあり様についてのシリーズを特集で組み、専門家の見識を得ながら提言を行いました。また、キャンプインフォメーションセンターには、キャンプブームを背景に今年も多くの相談が寄せられ、協会として可能な限り対応しました。朝霧野外活動センターは、繁忙期と感染ピークが重なり、その対応にたいへん苦勞しましたが、感染対策を講じながら、日帰り事業を中心にセンターの運営を継続することができました。

### <よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）>

公益目的事業2は、2021年度もコロナ禍の影響を受け、2年連続で指導者養成数が減少する結果になりました。特に、多くの大学・専門学校の課程認定校において、キャンプ実習が中止や延期になったことが、養成数が大きく落ち込む要因となりました。その一方で、都道府県キャンプ協会の養成数は、キャンプブームやオンライン講習の導入により参加人数の増加が見られ、前年を上回る結果となりました。教員免許状更新講習は、ウイズコロナを想定し、対面講習とオンデマンド講習の2コースを開講し、全国から94名の受講者がありました。

### <キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）>

公益目的事業3は、コロナ禍におけるキャンプ事業の可能性を探求し、情報発信を継続した年となりました。第25回日本キャンプミーティングは、設立55周年記念事業として位置付け、コロナ禍における各地のキャンプ活動報告、最近のキャンプトレンド情報の紹介等を行い、全国から多くの参加者が集いました。毎年恒例の「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンでは、安全対策委員会が中心となり、事故や感染防止のため啓発活動を展開しました。

### <法人事務>

法人事務は、最終年度となった事業3か年戦略に基づき、各事業の運営方法や支出の見直しを徹底し、運営の効率化をはかりながら、健全な財務管理に努めました。また、コロナ禍の影響で厳しい事業運営が続いている朝霧野外活動センターとは、定期的に情報交換を行い、事業運営のサポートを行いました。全体的には、今年も難しい協会運営が続いた年ではありましたが、これまで取り組んできた改革の成果が少しずつ実を結び、収支バランスが改善し、一定の収益を確保することができました。

## キャンプの活動を発展させ、広めていく事業（公益目的事業1）

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業では、キャンプブームやコロナ禍の中で、キャンプに対する多くの問い合わせが寄せられました。こうしたニーズを受けて、キャンプがもつ様々なチカラを世の中に発信し、キャンプの素晴らしさを伝えることに尽力しました。

### 1. 設立 55 周年記念事業

設立 55 周年記念事業は、一部の行事が中止になったが、予定を変更して実施することができた。

#### (1) 設立 55 周年記念式典

設立 55 周年を祝う式典は、CAMPING AWARD 2021、絵本作家・村上康成氏の特別表彰、歴代会長による記念シンポジウム、ビジョン 2025 の発表、俳優・タレントの金子貴俊氏記念講演、各ブロックからのビジョン 2020 の事例発表等を行った。

日 程：2021 年 9 月 18 日(土)

会 場：オンライン

参加者：133 人（延べ）



歴代会長による記念シンポジウム

#### (2) 都道府県キャンプ協会の集い

都道府県キャンプ協会の関係者が朝霧に集い、共に学び、交流する機会を予定していたが、全国的な感染症の流行のために、朝霧に集まることができなくなり中止となった。

日 程：2021 年 9 月 18 日(土)～20 日(祝)

会 場：中止



### (3) 朝霧高原キャンプの森

朝霧野外活動センターを会場に、全国のキャンプ協会関係者が協力して、静岡県民にキャンプの楽しさとスキルを1日で体験できる『朝霧高原キャンプの森』を開催予定だったが、コロナ禍による緊急事態宣言が発出されたため中止となった。しかし、イベントで使用する予定だった、各ブロックが協力して制作した「ご当地〇〇富士」の動画は、11月の『朝霧カーニバル』で公開し、静岡県の皆様に好評を得ることができた。

日 程：2021年9月19日(日)

会 場：中止

対 象：静岡県民

### (4) 第25回日本キャンプミーティング（公益目的事業3-1）

全国のキャンプ関係者がオンラインで集まり、8題のワークショップ、5題の実践・研究発表がなされ、活発な意見交換が行われた。シンポジウム「イマドキのキャンプ」では、多様な視点からキャンプの現状についての示唆が得られた。

日 程：2021年9月20日(祝)

会 場：オンライン

参加者：約100人（実行委員・発表者含）

### (5) キャンプ白書2021（公益目的事業3-4）

全国のキャンプディレクターやキャンプ・自然体験活動を展開する施設・団体に調査を依頼し、過去のキャンプ白書の結果と比較、及び新型コロナウイルス感染症流行前後での組織キャンプの実施状況について実態の把握を試みた。また、国内外の出版物からキャンプを取り巻く現状を調査し取りまとめた。

発行日：2022年3月31日

発行数：700部



## 2. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

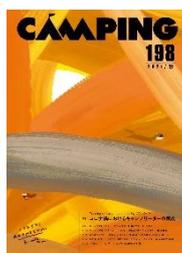
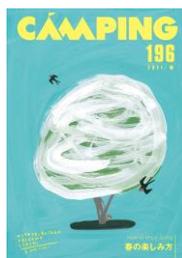
会報誌「CAMPING」の発行、Web サイト、SNS、メールマガジンなどを活用し、常に最新のキャンプ情報の収集と発信に努めた。キャンプインフォメーションセンターは、指導者派遣、テレビ番組や新聞社の取材、テレビコマーシャルの監修など、様々なニーズに丁寧な対応を行った。

### (1) 会報誌「CAMPING」の発行

今年度の会報誌「CAMPING」は、年4回季刊発行した。特集としては、4月号では昨年度から続いていた四季ならではの楽しみ方を紹介したほか、夏号からは各分野の専門家を招いて対談を行い、社会情勢に絡めた話題の提供を行った。

発行部数：各号 約 11,000 部

No	発行日	特 集
196	4月15日	春の楽しみ方
197	7月15日	コロナ禍における キャンプのリスクマネジメント
198	10月15日	コロナ禍における キャンプリーダーの育成
199	1月15日	キャンプでのリアルと バーチャルの融合の可能性



会報誌「CAMPING」

### (2) Web サイト及び公式 Facebook ページの運用

Web サイトや SNS を通じて国内外の最新のキャンプ情報を積極的に発信。中期事業計画（ビジョン推進事業）の情報は、外部の特設サイトから日本キャンプ協会サイト内に掲載場所を移行し、利便性の向上をはかった。Web サイトのアクセス数は、リニューアル直後だった 2020 年度と比べ 178% 増となった。

Web サイトアクセス数：約 175,000 人

Web サイト：<https://camping.or.jp>

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/ncaj.sns>

Facebook リーチ数：約 70,000 人、エンゲージメント数：約 6,000 人

### (3) メールマガジンの配信

日本キャンプ協会の情報提供サービスの一環として、会員及びキャンプやアウトドアに関心のある一般の方に向けて、メールマガジン「CAMPING News」を定期的に発信した。配信日は月の最終金曜から第一金曜に移行して月初めの情報とし、レイアウトを装飾するなどして読みやすい文面を心掛けた。

発行回数：毎月第 1 金曜日発信

購読者累計数：約 16,700 人、月平均：約 1,400 人

#### (4) キャンプインフォメーションセンター

2020年度に引き続きキャンプインフォメーションセンターは、マスコミをはじめ様々な方から指導者派遣や取材依頼が届いた。新型コロナウイルス感染症の流行により、注目度が高まったキャンプ活動を安全に行うための、初心者向けの記事監修依頼は毎月のように寄せられた。

##### <主な問い合わせ>

内容	クライアント	依頼内容
取材/出演	くふうカンパニーグループ	キャンプに関する注意喚起記事の取材
取材/出演	ぐんま国際アカデミー 中高等部	キャンプ指導者への職業インタビュー
取材/出演	フジテレビ	アウトドア対決の判定員出演
取材/出演	日本青年団協議会	「第1回未来の青少年活動を支えるフォーラム」登壇
指導者派遣	JTB ロイヤルロード銀座	家族への個別キャンプ指導
指導者派遣	公益財団法人 文字・活字文化推進機構	島根・静岡・新潟での自然体験活動の指導者派遣依頼
指導者派遣	株式会社ギークピクチャーズ ほか	CM撮影時の火の安全管理・監修
指導者派遣	松戸市立総合医療センター 附属看護専門学校	保健体育Ⅱ（教育キャンプ）講師派遣依頼
企画/助言	アクトインディ株式会社	いこーよ四季冒険部の人材派遣と会員サービスのコラボ立案
企画/助言	日本YMCA 同盟	論文作成における調査依頼
企画/助言	株式会社ガイアックス	地域創生としてキャンプインストラクター活躍の機会創出
調査/監修/執筆	株式会社ツーオーツー 月刊マモル編集部	機関紙にてWebサイト文言引用
その他/相談	みずほビジネスパートナーズ株式会社	不要になった寝袋の活用 朝霧野外活動センターへ寄付

対応件数：96件

内 訳：取材/出演（26件）、指導者派遣（26件）、企画/助言（18件）、調査/監修/執筆（12件）、  
その他/相談（14件）

### 3. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営（自然体験活動実践の場の提供）

静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設である静岡県立朝霧野外活動センターを、県内の野外教育関係団体と協働し、日本キャンプ協会グループとして運営を行いました。2021年度は、当初は新型コロナウイルス感染症の影響が少なく、利用団体受入れ、主催事業ともに、計画どおり運営することができました。しかし、7月後半以降は感染拡大の影響を受け、県の判断による利用団体の受入れ、主催事業の中止が相次ぎ、2年続けて厳しい運営となりました。特に、子どもを対象とした夏休みの長期キャンプと、それに係る大学生を対象とした指導者養成事業が中止されたことは、大きなダメージになりました。施設の利用者数は、2020年度実績からはある程度回復しましたが、コロナ禍以前と比べると、5割程度にとどまりました。そのような中でも、野外活動の拠点施設として、利用に至った団体に対する支援を行った他、グループ団体それぞれと協力して、様々な人を対象に自然体験活動の機会を提供し続けられるよう努めました。

#### （1）自然体験活動事業（自主事業）の実施

「朝霧高原サマーキャンプ～つながろう富士山～」及び「長期キャンプ指導者養成講習会」は、子どもを対象とした長期キャンプとその指導者養成事業の機会として重要な事業のため、引き続き最優先事項として取り組んだが、まん延防止等重点措置が発出される可能性があることを理由に、静岡県が2日前に中止を決定したため、実施できませんでした。2017年度より開催している「ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧（NSCA）」も、緊急事態宣言の発出に伴い8月20日から9月30日まで施設が休所になったため、実施できませんでした。一方で、不登校児童生徒や引きこもりがちな青少年を対象とした「朝霧高原ホッとキャンプ」は、子どもたちの活動機会を確保するため、グループ団体と協力しながら、計画通り実施しました。広報活動をさらに強化するため、静岡県総合教育センターが運営する「まなぼっと（静岡県生涯学習情報発信システム）」にも団体登録し、事業のより一層の周知と拡充を目指し、参加者を増やすこともできました。2021年度における自主事業の実施は、2020年度よりも新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止せざるを得ない状況が多くなりましたが、防止対策をさらに強化しながら、できる限り実施するよう努めました。

#### 青少年自然体験事業 <主催事業>

事業名	日程	対象	参加人数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月4日事前研修会	小学5年生から	112
	8月7日～15日	中学3年生	中止

#### 野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加人数
野外活動プログラム実習	4月16日～17日	教員、利用団体の担当者 及び指導者	2
	11月12日～13日		5
長期キャンプ指導者養成講習会	6月19日～20日 7月10日～11日 8月7日～15日中止 10月9日～10日 10月15日～17日	専門学校生 短大生 大学生	8

	10月22日～24日 11月3日		
野外活動指導者養成講習会	2022年 2月11日～13日	野外教育に興味のある 人、青少年団体の指導 者、教育関係者	8

#### 県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加人数
ちよっといい春感じませんか	4月24日～25日	家族・小グループ	149
ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧 ・朝霧マウンテンオリエンテーリング ・はじめてのナビゲーションゲーム	9月5日～6日	家族・小グループ	中止 応募144 応募136
ステキな秋をあなたに	10月2日～3日	家族・小グループ	143
オリエンテーリング in 朝霧	11月27日～28日	家族・小グループ	320
スケートキャンプ	11月19日～20日	家族・小グループ	28
	12月3日～4日		44
	1月7日～8日		31
	1月14日～15日		58
	2月4日～5日		49
	3月11日～12日		中止
223(ふじさん)ウォーキング	2月19日	家族・小グループ	92
プラネタリウムと星空探訪	3月4日～5日	家族・小グループ	66
スケートフェスティバル in あさぎり	11月3日	家族・小グループ	89
	3月6日		119

#### 施設開放事業

事業名	日程	対象	参加人数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計14日 1,087
スケート一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計24日 3,526
富士山の日にあさぎりで遊ぼう	2月23日	家族・小グループ	151
朝霧カーニバル	11月7日	家族・小グループ	807
あさぎりっ子スケートクラブ	11月～3月の 水曜日又は木曜日	センター周辺の小学校(5校)に通う児童とその家族	計23日 367

#### 社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加人数
朝霧高原ホットキャンプ ※日程を変更して実施	10月9日～11日	不登校児童・生徒	5
	3月12日～13日	引きこもりがちな青年	5

#### 自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対象
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者(オリエンテーリング in 朝霧、223(ふじさん)ウォーキング等)



スケートキャンプ



野外活動プログラム実習

## (2) 受け入れ事業での支援

朝霧野外活動センターを利用した社会教育団体及び学校団体は 470 団体 38,036 人でした。利用を取りやめた団体は、年間で 194 団体 310,031 人でした。利用団体に対し、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含め、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かい支援を実施しました。各活動の運営方法、計画の立て方、実地踏査の行い方、安全管理と危機管理の方法、実際のプログラム運営の支援及び施設を利用する上で必要な感染症防止対策等、研修の実施にあたり必要となる事柄について、個別に対応し、利用団体の実施する研修活動がより効果的なものとなるようにサポートしました。

### 利用者数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	2,581	3,040	3,375	11,780	10,769	8,935	5,579	11,197	4,377	2,781	2,142	1,654	68,210
2020	49	0	600	1,276	2,119	4,391	5,580	5,594	4,698	2,278	2,518	2,765	31,868
2021	942	3,426	4,262	6,437	1,503	0	3,833	5,401	4,941	1,875	1,722	3,694	38,036
前年度比	893	3,426	3,662	5,161	△ 616	△ 4,391	△ 1,747	△ 193	243	△ 403	△ 796	929	6,168
平年比	△ 1,958	△ 3,387	△ 3,219	△ 3,729	△ 8,034	△ 9,166	△ 2,243	△ 1,452	1,660	△ 934	△ 619	△ 755	△ 33,835

### <本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	2,456	2,321	2,754	6,911	5,341	5,508	4,536	9,473	3,942	2,591	2,011	1,406	49,250
2020	49	0	446	628	581	3,151	3,883	5,138	4,238	2,214	2,416	2,404	25,148
2021	768	2,515	3,586	4,038	728	0	3,022	5,031	4,500	1,724	1,581	3,251	30,744
前年度比	719	2,515	3,140	3,410	147	△ 3,151	△ 861	△ 107	262	△ 490	△ 835	847	5,596
平年比	△ 1,987	△ 1,936	△ 1,479	△ 2,396	△ 4,463	△ 5,243	△ 1,833	△ 1,040	1,687	△ 707	△ 570	△ 629	△ 20,595

### <キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	125	719	621	4,869	5,428	3,427	1,043	1,724	435	190	131	248	18,960
2020	0	0	154	648	1,538	1,240	1,697	456	460	64	102	361	6,720
2021	174	911	676	2,399	775	0	811	370	441	151	141	443	7,292
前年度比	174	911	522	1,751	△ 763	△ 1,240	△ 886	△ 86	△ 19	87	39	82	572
平年比	29	△ 1,451	△ 1,740	△ 1,333	△ 3,571	△ 3,922	△ 410	△ 412	△ 27	△ 227	△ 49	△ 127	△ 13,239

平年比 2010 年度から 2019 年度まで 10 年間の平均との比較

### 利用団体数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019	22	27	32	87	84	59	30	49	58	57	48	41	594
2020	5	0	13	23	43	43	42	48	63	51	47	57	435
2021	13	34	41	66	20	0	41	55	58	39	35	68	470
前年度比	8	34	28	43	△ 23	△ 43	△ 1	7	△ 5	△ 12	△ 12	11	35

#### <本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	17	16	21	51	43	38	20	42	49	51	44	37	429
2020	5	0	7	10	10	28	24	42	53	46	43	50	318
2021	9	22	28	37	10	0	27	46	51	35	29	58	352
前年度比	4	22	21	27	0	△ 28	3	4	△ 2	△ 11	△ 14	8	34

#### <キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	5	11	11	36	41	21	10	7	9	6	4	4	165
2020	0	0	6	13	33	15	18	6	10	5	4	7	117
2021	4	12	13	29	10	0	14	9	7	4	6	10	118
前年度比	4	12	7	16	△ 23	△ 15	△ 4	3	△ 3	△ 1	2	3	1

### (3) プログラム開発

協働事業として、遠藤知里氏(静岡県キャンプ協会理事・常葉大学短期大学部保育科准教授)に2018年度から実施していただいている幼児キャンプ「とことこキャンプ」を、「とことこキャンプ実行委員会」の主催事業として7月(1泊2日)、8月(3泊4日)、9月(1日)、10月(1泊2日)の計4回計画しました。9月はキャンプと音楽をテーマに新しい取り組みを企画していましたが、緊急事態宣言に伴う休所措置により、残念ながら開催できませんでした。



かまどの火を見つめる



たきび

### 「とことこキャンプ」

地域の自然、史跡、文化、地質、産業などの情報や資料等を収集・整理し、「朝霧見どころガイド」という冊子にまとめ、利用団体に配付できるようにしました。また、利用団体がいつでも利用できる、センターの敷地とその周辺を利用するオリエンテーリングのコースを1つ新設し、提供しました。

#### (4) 地域との協働

- ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いたため、高齢者が多く居住する周辺地域からの要請で、地域振興等の各種取り組みへの参加を昨年度に続き控えました。
- ・11月に地域の住民、事業協力者、周辺施設の職員などを招き、恒例の地域懇談会を開催し、センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に生かしました。
- ・国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力して、朝霧野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日開催しました。この事業は、地域住民、地域の施設、県内の青少年教育施設及び社会教育団体等の参加を得て、朝霧高原地域のイベントとして実施しました。なお、日本キャンプ協会設立 55 周年記念事業で公開する予定だった、全国の都道府県キャンプ協会の皆さんが作成された「ご当地富士」の動画をこの機会に上映し、多くの来場者に見ていただくことができました。



地域懇談会



朝霧カーニバル  
(松下牧場・トラクターツアー)



「ステキな秋をあなたに」



「野外教育指導者養成講習会」

#### (5) 外部評価委員会

2021年4月23日に、2020年度の実施状況について説明を行い、これを受け、6月25日に県庁で2020年度の評価結果伝達が行われました。2021年度については、2022年4月28日に外部評価委員会の視察が行われ、施設の運営状況について報告を行いました。2021年度の評価結果伝達式は行われず、2022年7月に文書等で通知される予定です。

#### 4. 地域の関係団体との連携

青少年教育、社会教育、NPO 法人、野外教育、行政機関などの各団体と連携をはかるため、担当委員として協力を行った。

団体名	役職	担当
青少年教育5団体連絡協議会	委員	依田 智義
中央青少年団体連絡協議会世話人会	委員	依田 智義
体験の風をおこそう運動推進委員会	代表委員	平田 裕一
	委員	依田 智義
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	理事	依田 智義
公益財団法人ハーモニセンター	監事	依田 智義

#### 5. 他団体と共同で行う事業

他団体との共同事業は、コロナ禍が続き多くの事業が中止を余儀なくされたが、2022年3月に中央青少年団体連絡協議会、社会教育団体協議会、文部科学省の共催による「コロナ禍における青少年教育活動の可能性について」のシンポジウムをオンライン開催することができた。

#### 6. 国内外の情報収集と提供

世界的なパンデミックは、国内外のキャンプ事業に大きな影響を及ぼし続けているが、デジタルネットワークの急速な普及に伴い、国際キャンプ連盟（ICF）と日本キャンプ協会の連帯は、コロナ禍以前よりもますます強いものになっている。

##### （1）国外情報の提供

昨年度に続き、国際キャンプ連盟（ICF）ニュースレターを Web サイトに掲載し、海外のキャンプ情報の紹介を定期的に行った。併せて、世界中のキャンプに情報提供を行いサポートすることを目的とした無料のワークショップやコンサルティング・トレーニングサービスを提供する Viristar 社が、ICF とコラボレーションした事業などを紹介した。なお、10月に中国・北京で予定していた「国際キャンプ会議」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

- ・「ICF ニュースレター」の紹介（5月、9月、1月2回、3月）
- ・ワークショップの紹介（12月、1月、2月、3月）
- ・Viristar 社のリスクマネジメント研修の紹介（2月）

##### （2）国内情報の海外発信

キャンプの明るい未来に貢献することを目的とした SNS によるキャンペーン『#ThankstoCAMP』が国際キャンプ連盟主導で実施され、日本キャンプ協会は 2020年8月に続き参加した。多くの人がキャンプに対するメッセージを日本から世界に発信することができた。

- ・『#ThankstoCAMP』キャンペーンへの参加（4～5月）

## 7. 都道府県キャンプ協会の事業連携 ～ビジョン2020からビジョン2025へ～

都道府県キャンプ協会の多くは、長引くコロナ禍により、キャンプ事業の運営に影響を受けているが、可能な限り事業を止めないために、継続して支援や協力を行った。こうした現状もふまえて、ビジョン推進委員会では、新たにビジョン2025の策定を行い、協会の目指す中期事業目標を定めた。

### (1) キャンプ指導者養成講習会の支援と協働

新型コロナウイルスの感染症の流行が収まらない中、指導者養成委員会は、「2021年度指導者養成の実施について」の中でコロナ禍における指導者養成の方針を示し、講習会の継続実施のために支援を行った。講習形式の変更等の効果もあり、前年度より参加人数は増える結果となった。

### (2) 会報同封サービスの提供

都道府県協会の会報誌やチラシなどをCAMPINGに同封して所属会員に発送する、会報同封サービスを提供した。都道府県キャンプ協会以外の団体会員による同封サービス利用が拡大し、団体会員の活動活性化や個人会員への情報伝達に寄与することとなった。

・利用した都道府県協会・団体数 15協会 延べ発送点数 10,190点

### (3) ブロック会議の開催

今年度もコロナ禍の状況をふまえて、オンライン会議を実施した。主管協会(幹事県)、ブロック理事、地域連携委員と日本協会が協力し、各協会の近況、ビジョン2025の推進、ブロック内の連携(55周年記念事業)などについて協議を行った。

ブロック	日程	主管協会(幹事県)	延べ出席者数
全ブロック	4月24日	日本協会	65人
北海道・東北ブロック	7月24日・1月31日	北海道	18人
関東ブロック	7月27日・11月28日	山梨県	19人
中部・北陸ブロック	7月11日・9月7日・12月18日	三重県	40人
近畿ブロック	7月29日・9月1日・1月14日	和歌山県	48人
中国・四国ブロック	8月1日・9月4日・1月15日	山口県	39人
九州・沖縄ブロック	7月19日・12月15日・2月19日	福岡県	44人

### (4) デジタル化推進への協力

各都道府県協会にメールアドレスとWebサーバーの提供を行い、都道府県協会が社会的な信用を担保し、インターネットを利用して情報発信・収集が行えるよう支援した。2021年度は個別にWebサイトを運用していた2件の都道府県協会が、費用削減の観点から日本協会のサーバーに移行した。また、都道府県協会が実施するリモート会議やオンライン講習会へのサポートとして、Zoomシステムの貸出しを昨年度から継続して行った。

・Zoomを利用したブロック会議の回数：17回 協会の総会等：8回 その他会合等：1回

## 8. 「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの実施

キャンプを安全に楽しんでもらうために、毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、夏休み期間に全国各地で安全啓発キャンペーンを展開した。2021年度は安全対策委員会主導のもと、公益財団法人河川財団、公益社団法人日本小児科学会、公益財団法人日本スポーツ協会が公開している情報を参考に、水や一酸化炭素中毒の事故事例紹介やキャンプでの新型コロナウイルス対策としてのチェックリスト例を設け、注意喚起を行った。

- ・ キャンペーン期間：2021年7月1日(木)～8月31日(火)
- ・ キャンプ安全の日：2021年7月18日(日)
- ・ キャンペーンチラシのWeb配布、「安全なキャンプのために」などの小冊子の提供
- ・ 広報活動（Webサイト、Facebook、報道機関）の全国展開
- ・ 都道府県キャンプ協会での安全啓発活動

## 9. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

キャンプを通じた自然体験活動を行う際には多くの事業・イベントでテントが活用されており、欠かせない用具である。ただし、主に屋外で不特定多数の参加者に使用されるため損傷も早く、安全に楽しくキャンプを行ってもらうためには更新が必要である。このため、一般財団法人日本宝くじ協会から助成金を受け、テントを希望する全国の都道府県キャンプ協会に配布を行った。これらのテントは、都道府県キャンプ協会が主催するキャンプ、指導者講習会、イベントなどで幅広く活用された。

配布件数：40 都道府県キャンプ協会 5種 85張



都道府県キャンプ協会に配備したテント一例

## よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業（公益目的事業2）

よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業は、キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の心身の成長をファシリテートする指導者を養成する大切な事業です。今年度もコロナ禍の影響は続きましたが、感染対策や講習形式の変更等、様々な取り組みが各地で積極的に行われた年となりました。

### 1. 公認指導者養成

#### (1) キャンプインストラクター養成講習会

キャンプインストラクター養成講習会は、昨年に続き「2021年度指導者養成の実施について」の中でコロナ禍における指導者養成の方針に基づき、感染対策を講じながら集合講習、日帰り講習、ハイブリット講習（集合講習＋オンライン講習）など、新たな形の講習を全国各地で実施した。

#### 講習会（課程認定団体A・B・C団体による実施）

課程認定団体	養成人数
都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	744
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	643
合 計	1,387

※養成目標数 1,600 人、達成率 86.7%

※2020年度養成数 1,550 人、対前年比 163 人減少

#### (2) キャンプディレクター2級養成講習会

キャンプディレクター2級養成講習会においても、「2021年度指導者養成の実施について」の中でコロナ禍における指導者養成の方針に基づき、感染対策を講じながら、全国各地で講習会を継続実施した。全国的に受講者が増え、キャンプインストラクター取得から1年以内でのキャンプディレクター2級取得も多くみられた。

#### A団体による実施

主催県	日 程	会 場	養成人数
福井県	7月2日～4日	国立若狭湾青少年自然の家	8
東京都	オンライン講習： 10月20日、21日、27日、28日	オンライン	24
	集合講習① 10月30日～31日	ヒゲッチキャンプ場	
	集合講習② 11月3日～4日		
	集合講習③ 11月10日～11日		
大阪府	12月17日～19日	吉野宮滝野外学校	3
宮城県	2月11日～13日	宮城県松島自然の家	12
香川県	2月11日～13日	香川県立五色台少年自然センター	8
福岡県	1月28日～30日	北九州市立玄海青年の家	17
	3月11日～12日	国立夜須高原青少年自然の家	
		合 計	72

※2020年度 5会場：30人、対前年比42人増加

## B・C団体による実施

団体名	養成人数
筑波大学（B団体）	9
六甲山YMCA（C団体）	15
仙台大学（B団体）	3
常葉大学（B団体）	1
北翔大学（B団体）	11
国際自然環境アウトドア専門学校（B団体）	7
合 計	46

※2020 年度養成 2021 年度登録

※2020 年度 4 団体：13 人、対前年比 33 人増加

※養成目標数（A・B・C 団体）70 人、達成率 169%

※2020 年度全体養成数（A・B・C 団体）43 人、対前年比 75 人増加

### （3）キャンプディレクター1級養成講習会（日本キャンプ協会主催）

キャンプディレクター1級養成講習会は、昨年度に引き続きオンライン講習会として開催した。オンラインだからこそ参加できたという声も多く、今年も新たに 38 名のキャンプディレクター1級指導者を認定することができた。

日 程	受講数	会 場
11 月 21 日～23 日	18 人	オンデマンド講習+オンライン講習
12 月 10 日～11 日	18 人	オンデマンド講習+オンライン講習

※養成目標数 30 人、達成率 120%

※2020 年度 2 会場：32 人、対前年比 4 人増加

### （4）キャンプディレクター1級検定会（日本キャンプ協会による実施）

日 程	受講数	会 場
1 月 22 日～23 日	24 人	オンライン検定
2 月 12 日～13 日	14 人	オンライン検定

※養成目標数 30 人、達成率 126.6%

※2020 年度 2 会場：30 人、対前年比 8 人増加



キャンプディレクター1級オンライン検定会

## 2. キャンプ指導者の審査・認定

### 資格申請者の審査・認定

認定日	資格名 キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級
4月13日		9	1
5月19日		1	
6月17日		10	
8月25日		8	
9月10日		1	
11月8日		1	
12月6日		20	
1月7日		6	
1月20日		11	
2月8日		1	23
3月7日		19	12
3月22日		21	2
合計人数	1,387	108	38
目標人数	1,600	70	30

※2020年度 D1：36人 D2：32人

### 指導者資格（インストラクター・ディレクター）の更新

キャンプ インストラクター(CI)	キャンプ ディレクター2級(D2)	キャンプ ディレクター1級(D1)	合計人数
3,669	1,360	978	6,007

※指導者資格更新目標数 6,000人、達成率 100%

※2020年度 CI：3,735人 D2：1,356人 D1：1,010人 合計 6,101人 対前年比 94人減少

### 課程認定団体数

(単位：団体)

A団体	B団体	C団体
47	107	23

※2020年度 A団体：47団体 B団体：107団体 C団体：22団体

### 新規課程認定団体の審査・認定

No	審査会日程	課程認定団体名
1	4月27日	B団体 和光大学(東京都)
2	8月23日	B団体 大原学園スポーツ医療保育福祉専門学校(福井県)
3	2月8日	B団体 大阪電気通信大学(大阪府)
4	3月14日	C団体 本郷の家(大阪府)

※新規課程認定団体目標数 10団体、達成率 40.0%

※2020年度新規課程認定団体 8団体、対前年比 4団体減少

## 賛助会員・団体会員

No	入会日	団体名
1	6月18日	GreenkBlue
2	7月2日	アクトインディ (株)

※新規賛助・団体会員目標数2団体、達成率100%

※2020年度新規賛助・団体会員3団体、対前年比1団体減少

### 3. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクター養成用のテキスト「キャンプ指導者入門第5版」の発行を継続して行った。また今年度も、教員免許状更新講習18時間講習のテキストとして使用した。キャンプディレクター養成用のテキスト「キャンプディレクター必携」は、継続して発行を行いながらも、2022年4月1日に改訂版を発行するため、編纂作業を行った。新型コロナウイルス感染症による影響を考慮しながら、索引を追加するなどの対応を行い、新たに「キャンプディレクター必携第3版」として発行できた。

### 4. 課程認定団体向け研修会

新型コロナウイルス感染症の影響により、課程認定団体研修会はオンラインでの開催となった。事前に88名の申し込みがあり、2020年度コロナ禍でどのように指導者養成を展開したのか、課程認定団体からの事例報告を基に、2021年度の対策について意見を交わした。

日 程：2021年5月8日(土)

会 場：オンライン

参加者：98人(発表者、運営委員、役員含)

### 5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会(公益目的事業1-1)

2021年度の都道府県キャンプ協会指導者研修会は、9月に開催した設立55周年記念行事の一環として行われた。これまで実施してきたビジョン2020の活動の中で、特に、注目すべき先進的な取り組み事例について各ブロックから報告があり、ビジョン2025につなげる学びの機会となった。

日 程：2021年9月18日(土)

会 場：オンライン

参加者：133人(延べ)



都道府県キャンプ協会からのビジョン2020事例報告

## 6. 課程認定団体の増強への取り組み

2021年度からキャンプインストラクター養成実施報告書において、登録者数だけでなく養成カリキュラム受講者数の記入欄を設けた。それにより、ある大学では110名がカリキュラムを受講しながら、3名しか登録していないといった現状が明らかになり、B団体での指導者養成時に、受講生に資格取得をアピールする必要性が明確となった。他団体が行っている資格取得へのアピール（動画やパンフレットの作成）を参照し、新たに取り組みを始めることとなった。

## 7. 指導者養成制度改訂に向けた検討

全国の大学などで推薦入試制度が広まっている背景から、高校生向けの資格制度の立案があり、検討が進んでいる。また、コロナ禍での密を避けた活動としてキャンプの注目度は高まっていることから、キャンプインストラクター養成講習会受講者層も変化を見せている。時代や対象に合わせた自由な講習会の展開が進められるようビジョン2025を参考にしながら講習会を展開した事例も確認できた。

## 8. 教員免許状更新講習の実施

文部科学省認定事業・教員免許状更新講習への参入3年目を迎えた2021年度は、コロナ禍にも対応できるように、対面講習とオンライン講習の2コースを開講した。更に、文部科学省遠隔地開講補助金を活用し、少人数でも開講できる体制を整えた。その結果、対面講習は、コロナ禍の第5波の影響を受け5会場は中止になったが、7会場は感染対策を講じて実施することができた。中止になった会場の受講者に対してはオンライン講習での受講を紹介し、できる限り「教育キャンプ」の学びの機会を提供した。多くの関係者の協力のおかげで、2021年度も講習を開講できたことに深く感謝したい。

開催地	会場	開催日	受講者数
北海道	札幌市滝野自然学園	8月16日～18日	中止
宮城県	宮城県松島自然の家	8月11日	7
茨城県	茨城県立里美野外活動センター	7月21日～23日	中止
埼玉県	埼玉県立長瀬げんきプラザ	7月30日～8月1日	11
東京都	国立オリンピック記念青少年総合センター	8月5日～7日	19
山梨県	山梨県立愛宕山少年自然の家	8月10日	中止
静岡県	静岡県立朝霧野外活動センター	8月3日～5日	4
愛知県	愛知県美浜少年自然の家	8月10日～12日	7
奈良県	吉野宮滝野外学校	7月24日～26日	8
兵庫県	神戸市立少年自然の家	8月10日～12日	12
福岡県	福岡県立少年自然の家「玄海の家」	7月21日～23日	中止
鹿児島県	かごしま県民交流センター	8月6日	中止
全国	オンデマンド講習 18時間講習	7月27日～9月30日	11
全国	オンデマンド講習 6時間講習	7月27日～9月30日	15
		合計	94

※2019年度 7会場8回対面講習 受講者数52人

※2020年度 オンデマンド講習（18時間・6時間） 受講者数46人

## キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業（公益目的事業3）

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業は、国内外で行われているキャンプの実践や研究についての調査、情報の収集、整理を行い、実践者、研究者に関係資料の提供を行いました。特に、コロナ禍においても、各地で行われたキャンプの事例紹介、感染対策の情報発信等を定期的に展開し、キャンプ事業の継続を支援することに努めました。

### 1. 第25回日本キャンプミーティングの開催（公益目的事業1-4）

55周年記念大会の最終日に朝霧野外活動センターをベースとしたオンラインでも参加できるハイブリット開催を予定していたが、感染拡大による55周年記念大会のオンライン化に伴い、キャンプミーティングもオンラインでの開催となった。

コロナ禍での密を避けた活動としてキャンプの注目度が高まっている背景から、シンポジウムは「イマドキのキャンプ」と題し、様々な視点からキャンプの現状についての示唆を得た。

日 程：2021年9月20日（日）

会 場：オンライン

参加者：約100人（実行委員・発表者含）

#### 【シンポジウム登壇者】

根本 昌幸 氏（コールマンジャパン株式会社 マーケティング・ディレクター）※当時
竹川 将樹 氏（株式会社ふもとっばら 代表取締役）
寺中 祥吾 氏（軽井沢風越学園 副校長）
青木 達也・江梨子 氏（キャンプ民泊 NONIWA オーナー）

#### 【研究発表】2題

日本キャンプ協会「キャンプ保険（国内旅行傷害保険）」の事故分析
アフターコロナのインバウンドキャンプ市場

#### 【実践(取り組み)発表】3題

コロナ禍のキャンプ実習—オンラインでやってみた—
自然学校と企業・メーカーとの連携に向けた取り組み
密を避けた野外炊飯（鉢輪炊飯）

#### 【ワークショップ発表】8題

すべての人に星空を一星と人をつなぐ仕事—
子どもたちに「ライフジャケット」を！—思いはただ1つ・・・子どもたちの命を守ること—
登山案内図に見る富士登山
キャンプ協会で頑張る若手の集い

絵本を通して考える「おいしくカレーをつくるポイント」
レクで人気のじゃんけんゲームで触れる、キャンプの装備・安全！
オンラインや360度カメラを使用したstayhomeでの自然体験の検討
なぜ、馬や自然は子どもの育ちに良いのか？—ホースセラピーの現場から—



第25回日本キャンプミーティング  
抄録集



シンポジウムの様子 (YouTube 公開)

## 2. 定期刊行物『キャンプ研究』

会員の研究や活動発表におけるひとつの機会として、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、『キャンプ研究』第25巻を発行した。キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWebサイトで公開し、広く一般にも読まれるようにした。

### 研究論文

大正時代から昭和時代前期までの社会事業における 組織キャンプを表わす用語「慈善旅行」「修学旅行」 —雑誌『東京府慈善協会報』より『社会福利』に至るまでに掲載された記事をもとに— (中島 豊)
コロナ禍にある大学生のメンタルヘルスと自然とのふれあい経験の関連 (佐藤 冬果・窪田 辰政)
大学生のキャンプ指導経験量がヒューマンコミュニティ創成マインドに及ぼす影響 (伊原 久美子)

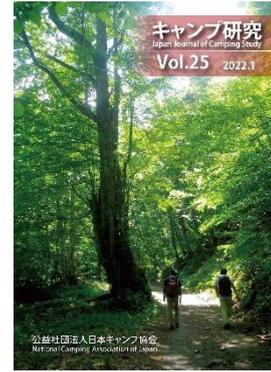
### 実践報告

コンピテンシーとキャンプ —デイキャンプを通してコンピテンシーは育成できるか— (渡邊 尊斗・倉品 康夫)
---

発行日：2022年1月15日

発行部数：3,000部

キャンプディレクター1級及び2級指導者へ郵送  
(別途PDF版をWebサイトで公開)



『キャンプ研究』第25巻

### 3. 安全に関する啓発活動

キャンプを安全に楽しんでもらうために、毎年7月の第3日曜日を「キャンプ安全の日」と定め、夏休み期間に全国各地で安全啓発キャンペーンを展開した。2021年度は安全対策委員会主導のもと、公益財団法人河川財団、公益社団法人日本小児科学会、公益財団法人日本スポーツ協会が公開している情報を参考に、水や一酸化炭素中毒の事故事例紹介やキャンプでの新型コロナウイルス対策としてのチェックリスト例を設け、注意喚起を行った。また、安全対策委員会では、キャンプ中の事故事例のデータ化をはかり、同じケースの事故防止を啓発する、システム開発に着手した。

### 4. キャンプ白書2021（公益目的事業1-5）

全国のキャンプディレクターやキャンプ・自然体験活動を展開する施設・団体に調査を依頼し、過去のキャンプ白書の結果と比較及び新型コロナウイルス感染症流行前後での組織キャンプの実施状況について実態の把握を試みた。また、国内外の出版物からキャンプを取り巻く現状を調査し取りまとめた。

発行日：2022年3月31日

発行数：700部

## 法人事務

コロナ禍が続く中、様々な部分で運営の難しい1年でしたが、感染予防を徹底し、役員と職員が緊密に連携をはかり、協会運営に支障をきたさぬように努めました。特に、最終年度である事業3か年戦略の成果が少しずつ現れるようになり、全体的に収支バランスの改善をはかることができました。

### 1. 諸会議の開催（全てオンライン開催）

会議名	回数	日 程		
定時社員総会	1	6月13日		
理事会	2	5月22日 / 2022年3月5日		
監査	14	5月19日 / T's会計毎月1回（対面）		
三役会	18	4月15日、17日（臨時）・4月23日・6月11日（臨時）・6月18日・7月19日・8月23日・9月24日・10月22日・11月23日・12月4日、7日（臨時）・12月23日・1月18日（臨時）・1月26日・2月4日（臨時）・2月21日・3月24日		
執行理事会	11	4月27日・5月27日・6月23日・8月25日・9月27日・10月25日・11月25日・12月27日・1月28日・2月25日・3月29日		
合同ミーティング	2	11月24日・3月15日（ビジョン推進・地域連携・ブロック理事連携）		
ブロック会議	17	全ブロック	1	4月24日
		北海道・東北ブロック	2	7月24日・1月31日
		関東ブロック	2	7月27日・11月28日
		中部・北陸ブロック	3	7月11日・9月7日・12月18日
		近畿ブロック	3	7月29日・9月1日・1月14日
		中国・四国ブロック	3	8月1日・9月4日・1月15日
		九州・沖縄ブロック	3	7月19日・12月15日・2月19日

### 運営委員会等

会議名	回数	日 程
CAMPING 編集委員会	3	6月9日・9月29日・2月8日
指導者養成委員会	3	8月12日・1月13日・3月18日
ビジョン推進委員会	4	4月21日・8月31日・11月24日・3月15日
地域連携委員会	4	4月11日・6月30日・11月24日・3月15日
総務委員会	2	6月28日・11月17日
キャンプミーティング実行委員会	6	4月22日・5月13日・6月10日・8月10日・9月16日・11月4日
朝霧運営委員会	1	3月23日
安全対策委員会	3	6月17日・2月12日・3月26日

設立 55 周年作業部会	9	4月20日・4月23日・6月8日・6月25日・ 7月26日・8月18日・8月25日・9月10日・ 10月19日
キャンプ白書編集委員会	3	5月25日・11月1日・3月7日
教員免許状更新講習タスク	1	2月24日
朝霧野外活動センターとの ミーティング	3	12月21日・1月27日・2月18日
事務局会議	11	5月26日・6月24日・7月15日・8月26日・ 9月28日・10月28日・11月25日・12月23日・ 1月31日・2月28日・3月17日

### その他の会議、研修等

会議名	回数	日 程
青少年教育 5 団体連絡協議会	—	コロナ禍のため実施なし
中央青少年団体連絡協議会世話人会	4	7月20日・8月27日・10月6日・2月1日
文部科学省と中青連世話人会との意見交換会	1	3月10日
体験の風をおこそう運動推進委員会	1	6月22日（書面開催）
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	2	5月28日・3月18日
公益財団法人ハーモニイセンター	7	5月20日・5月30日・6月20日・12月18日 12月19日・2月27日・3月21日

### 静岡県立朝霧野外活動センター関係

会 議 名	回数	日 程
県立青年の家等所長会	5	5月21日・9月9日・9月22日（臨時）・12月3日・ 3月18日（所長欠席）
静岡県青少年教育施設協議会 所長会	3	4月7日・7月21日・10月6日・2月2日（中止）
主席会	4	5月6日・8月31日・12月14日・3月16日
県庁合同会議(コロナ対策)	2	8月18日（臨時）・1月19日（臨時）
安全対策委員会	2	6月18日・12月21日（朝霧）
外部評価委員会	2	2020年度事業実施に係る外部評価委員会4月23日 2020年度外部評価報告並びに評価伝達式6月25日
全国青少年教育施設所長会議	—	コロナ禍のため実施なし
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	—	コロナ禍のため実施なし
静青協職員研修会	—	コロナ禍のため実施なし（書面による会議）
社会教育実践研修	1	11月18日、19日（日帰り実施）
担当者会	2	9月10日・3月8日
地域懇談会	1	11月5日

食堂定期協議会(打合せ)	8	4月2日・6月2日・6月18日・22日・7月20日・9月23日・11月5日・1月19日
「体験の風をおこそう」 推進事業実行委員会	2	第1回5月29日・第2回2月25日 コロナ禍のためリモートで実施

## 2. 都道府県キャンプ協会との連携 (公1-6・7・8、公2-1・5・8)

コロナ禍により厳しい運営が続く都道府県協会との連携は、オンラインの活用を徹底して行い、定期的にブロック会議を開催し、情報共有と事業活動の支援を行った。

- ・キャンプ指導者養成講習会の支援と協働
- ・会報同封サービスの提供
- ・デジタル化推進への協力
- ・ブロック会議の開催と支援
- ・文部科学省委託事業のとりまとめと作業支援
- ・「キャンプ安全の日」全国一斉キャンペーンの展開
- ・キャンプ用品・用具の配備
- ・都道府県協会との連絡協議会の開催
- ・都道府県キャンプ協会指導者研修会の開催
- ・Monthly Report の発行(11回)

## 3. 日常法人業務

限られた職員数で円滑に業務を進めるために、作業効率のよくない業務の見直しを徹底して行い、リモート会議システムの導入や事務手続きのデジタル化を推進した。また、協会の財政状況を見据え、今年度より、消費税の外税方式への切り替えに伴い、会員管理システムの改修を行うとともに、行事や各種手当の見直しなど支出の抑制に努めた。なお、寄付金制度の導入については、十分に検討するまでに至らず、課題を残す結果となった。

＜法人事務の主な業務＞

会員管理／会費収納／事業方針・計画・予算の管理／日常経理事務／助成金事務／人事管理／諸規定の整備／内閣府への各種報告／他団体との渉外窓口

## 4. 各種団体等への協力・共催・後援

団体名	事業名	種別
日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
公益財団法人 日本レクリエーション協会	第75回全国レクリエーション大会	協力
愛媛県キャンプ協会	親子で楽しむ自然体験活動	後援
六甲山YMCA	Leave No Trace Trainer Course	後援
岩手県キャンプ協会	第47回キャンプインストラクター養成講習会	後援
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援

愛媛県キャンプ協会	秋満喫キャンプ	後援
アウトドアチャレンジ協議会	アウトドアチャレンジグランドスラム	後援
福井県キャンプ協会	ふくいキャンプミーティング	後援
公財) 大堀秀夫記念育英財団	星野敏男先生を囲む会	後援
ちばアウトドアフォーラム 2021 実行委員会	ちばアウトドアフォーラム 2021	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会 ※中止のため取消し	後援
一般社団法人茨城県キャンプ協会	「キャンプ地域創作活動でジモト再発見」	後援
公益財団法人 修養団	SYD ボランティア奨励賞 (第 17 回)	後援
公益財団法人 修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン (交流 20 年記念)	後援
公益財団法人 修養団	幸せの種まきキャンペーン <出前講座/課外事業>	後援
公益財団法人 修養団	子ども自然体験キャンプ《全国 9 会場》	後援
アウトドアチャレンジ協議会	全国青年アカデミーキャンプ	後援
アウトドアチャレンジ協議会	親子 de アウトドアチャレンジ	後援
アウトドアチャレンジ協議会	アウトドアチャレンジグランドスラム	後援

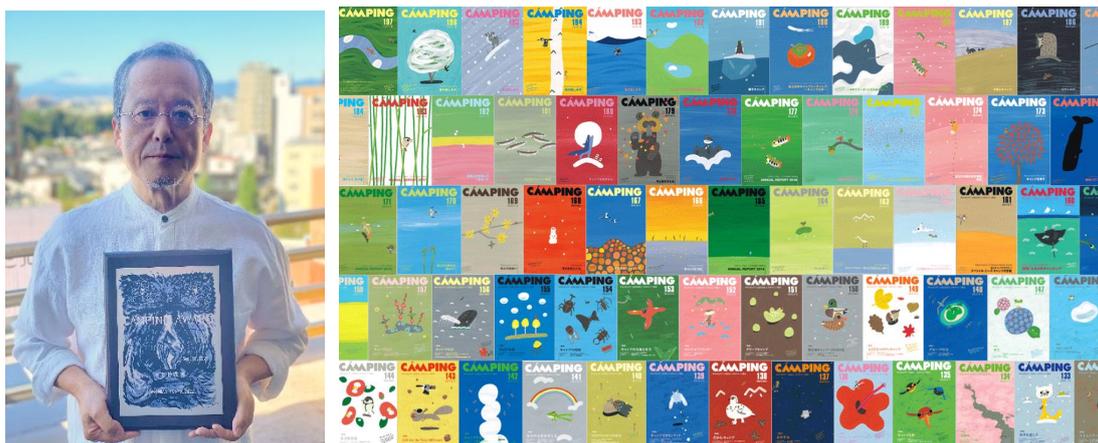
※共催はなし

## 設立 55 周年記念事業 特別表彰

村上 康成 氏

絵本作家、エッセイスト、自然派アーティスト

村上康成氏は 1955 年岐阜県生まれ。創作絵本をはじめ、ワイルドライフアート、オリジナルグッズなどで独自の世界を展開されておられる自然派アーティストとして有名です。CAMPING の表紙絵をお願いするきっかけとなったのは 2009 年、CAMPING128 号（4 月 1 日発行）にエッセイをお願いしたことでした。その年の秋 CAMPING131 号から 2021 年の夏号 197 号までに 67 枚の表紙を飾っていただいています。発行される季節に寄り添うように描かれた魚や動物たちの姿は、自ら「絵本も描ける釣り師」と名乗るほど、自然の中に身をおき、ゆっくりと時間を過ごすことが大好きな村上氏ならではのものです。毎回 CAMPING の表紙を楽しみにしている会員の方も多いのではないのでしょうか。また、10 年前に静岡県立朝霧野外活動センターで開催した設立 45 周年「キャンプフェスタ富士・朝霧」では、「自然のなかで息をすることについて」と題し、記念講演をしていただきました。昨年発表された絵本「まっている。」は、急ぎすぎている私たちに「待つ」時間の豊かさを教えてくれています。日本キャンプ協会設立 55 周年にあたり、本会への永年の功労を称え、特別表彰を授与しました。



## CAMPING AWARD 2021 受賞者（17人、2団体）

佐々木 幸一 氏

岩手県キャンプ協会 元事務局長

岩手県キャンプ協会発足当初（平成5年）より、会員及び役員として組織キャンプの指導及び普及に尽力されてきました。特にキャンプファイアーの指導は卓越しており、キャンプファイアーマイスターとして県内はもとより東北、全国におけるD2養成講習会の講師として活躍し、現在に至っています。また、役職在任中の平成18年には、岩手県キャンプ協会旗の制作を果たし、平成20年には県協会設立15周年記念事業に尽力し、加えて青森県キャンプ協会の設立にも貢献しました。個人的には、ボーイスカウト、日本レクリエーション協会、日本自然保護協会、NACS-J等の公認指導者としてそれぞれの立場でも広く活動しており、その幅広い人間性とユーモアに富んだ指導力で人々を引き付けて離さない魅力あふれる指導者として活躍されております。

（推薦団体：岩手県キャンプ協会）

三浦 浩樹 氏

秋田県キャンプ協会 副会長

キャンプネーム「コッキー」こと三浦浩樹氏は、秋田県キャンプ協会設立の中心メンバーであり、副理事長として長年に亘り当協会の運営や事業実施に力を発揮され、2016年からは、副会長として当協会の運営並びに秋田県における様々なスペシャルキャンプの普及発展に尽力されています。特に、協会の2大事業であるファミリーキャンプフェスティバルとチャレンジスノウキャンプは氏の企画・運営でスタートし、現在まで継続されている事業であり、その功績は大なるものです。

また、喘息や糖尿病の子どもたちを対象としたスペシャルキャンプのプログラムディレクターとして企画・運営の中心的な役割を果たすなど、「Camping For All」を協会内外の活動で実践してきました。三浦氏の固定観念にとらわれない新しいプログラムへのチャレンジ精神や優れた企画力、常に笑顔と温かい眼差しで、参加家族や子どもたちに対して気を配る姿勢や、得意のおカリナ、リコーダーの演奏で心に残るキャンプファイアーをデザインする能力などは、キャンプ指導者として会員の手本となっており、当協会の先導役として、今後も益々の活躍が期待される存在です。

（推薦団体：秋田県キャンプ協会）

遠藤 啓一 氏

山形県キャンプ協会 会長

山形県キャンプ協会が発足した昭和62年当初からの会員で、現在はディレクター1級として力を発揮されています。議論が混乱した時などは、柔らかな声での的確な指摘により纏まることも少なくありません。その暖かな人柄と冷静な判断力で信頼篤く、今年度からは県協会会長として会をまとめ、後進の育成にも力を注いでおられます。また、県協会の活動にとどまらず、寒河江市教育委員会公民館主事として、また、山形県スポーツ少年団指導者協議会理事・本部長として、子ども会育成会のキャンプやスポーツ少年団の毎夏のキャンプを中心にした交流事業に従事されてきました。そして、今年度からは日本スポーツ少年団副本部長として山形県のみならず全国的に活躍されています。

（推薦団体：山形県キャンプ協会）

## 諏訪 一弥 氏

一般社団法人 茨城県キャンプ協会 理事

平成10年の茨城県キャンプ協会発足にあたり、茨城県オリエンテーリング協会と本協会を繋ぎ、本県野外活動の発展にお力添えいただきました。また、オリエンテーリング協会の立場から、協会事業の方向性を導く助言をいただきました。本協会が主催する事業にとってオリエンテーリング協会との連携活動は、主たるアクティビティの一つとなっており、毎年、多くの活動実績があります。平成10年からは監事として、協会運営のアドバイザー的役割を担われており、協会として更にその見識をご教示いただきたいと強く願っております。諏訪氏は茨城県オリエンテーリング協会理事、水戸市オリエンテーリング協会理事長（現職）を歴任されており、県内のオリエンテーリングの普及と発展に尽力されてきました。特に協会が管理運営する茨城県立里美野外活動センター周辺では、OLコースの整備にも尽力されたことで、年間数多くのキッズキャンプやファミリーキャンプを展開できるフィールドへ発展させるなど多大な功績を残されました。

(推薦団体：一般社団法人 茨城県キャンプ協会)

## 新嶋 高行 氏

栃木県キャンプ協会 栃木県南ブロック代表

栃木県キャンプ協会が実施する様々な事業に意欲的に参加し、協会の発展と会員相互の知識・技術の向上や豊かな関係作りに多大なる貢献をされてきました。特に、栃木県キャンプ協会の中心的事業である「自然生活体験キャンプ」では、スタッフとして平成11年より通算14回参加し、子どもたちと共に活動するカウンセラー（3回）や事業を支えるマネジメントディレクター（3回）として中核的な役割を担ってきました。さらに装備や食糧などキャンプを側面から支える役割も進んで担当し、その温厚で誠実な人柄により、子どもたちはもとより多くのスタッフから信頼される存在となってきました。また、低学年児童対象の「わくわくどきどき初めてのキャンプ」においてもその幅広い知識や技術をいかんなく発揮され、参加者をキャンプの世界にいざなってきました。県南ブロック代表として協会運営にも積極的に参画しておられます。

(推薦団体：栃木県キャンプ協会)

## 町田 恒雄 氏

NPO法人 埼玉県キャンプ協会 正会員

町田恒雄氏は埼玉県の横瀬芦ヶ久保で生まれ育ち、30代の頃よりキャンプに関心を持ち、これまで40年近くを秩父地方を中心に自らキャンプに親しむと同時に、地域の野外活動の普及と発展に貢献されてきました。里山での生活で培われた素朴な性格と、暖かい口調に多くのキャンプファンを育ててこられました。落ち着いた行動と、親しみのある笑顔の表情は、キャンパーに安心感を与え、キャンプをしている事に幸せ感をもたらしてくれます。自身は火起こしにとっても興味があり、今でも「火起こし」と聞くと心と身体が踊ると言っています。埼玉県キャンプ協会は、町田氏が今後とも若手の育成と地域の活動の活性化、自然環境の保護といった様々な方面で幅広く活躍されることを期待しています。

(推薦団体：NPO法人埼玉県キャンプ協会)

## 後藤 秀昭 氏

NPO 法人 千葉県キャンプ協会 副会長

後藤秀昭氏は、2008年にキャンプディレクター1級の資格を取得。2007年には、市川市キャンプ協会設立の中心人物（現会長）として奔走し、翌2008年からはNPO法人千葉県キャンプ協会の支部協会として加盟するとともに同理事に就任、現在に至っています（2021年度より県協会副会長就任）。実践面では、キャンプ指導者養成講習会や子ども対象のサマーキャンプ等、多岐にわたる数々の活動に長年取り組むなど、キャンプの普及・啓発に尽力されています。また、個人的には山岳歴が40年を超え、現在も登山の楽しさを追及されています。

（推薦団体：NPO法人 千葉県キャンプ協会）

## 福田 豊 氏

NPO 法人 東京都キャンプ協会 元理事

福田豊氏は、長年小学校教諭として公教育に携わってきただけでなく、学生のころからキャンプやレクリエーションといった社会教育にもご尽力され、地域に根差した活動を継続していらっしゃいます。中野区キャンプ協会（現在の中野区キャンプ・レクリエーション協会）の設立にも寄与され、平成9年から四半世紀を超えて継続的に行われている「キャンプインストラクター養成事業」では、いずれの回も中心となって企画運営をけん引され、多くの有資格者を輩出されてきました。このアワードを受賞されるにふさわしい人財であることは疑う余地がなく、ここに推薦させていただきます。

（推薦団体：NPO法人 東京都キャンプ協会）

## 寺井 清 氏

富山県キャンプ協会 前会長

寺井清氏は、発起人の一人として、昭和62年6月の富山県キャンプ協会の設立に尽力され、協会設立後は、理事長として、万が一の事態に備えての指導者賠償責任保険を全国に先駆け導入し、指導者が安心して指導に取り組める環境を整えました。また、モデルキャンプとして、四季を通じて、海・山といった富山県の自然を生かしたプログラムの展開や普及に努めてこられました。前会長の退任に伴い、平成17年度から本年3月まで当協会の会長を務め、主催事業としての新規プログラムの模索のみならず、地域事業体等との共催事業にも積極的に取り組み、キャンプの普及及び当協会の知名度向上に努められました。

（推薦団体：富山県キャンプ協会）

## 鹿嶋 昌幸 氏

岐阜県キャンプ協会 顧問

小学生の時にボーイスカウトでキャンプの楽しさを体験して以来、山岳部を経て仲間とともに岐阜県キャンプ協会の前身である岐阜県野外活動研究会を設立、その後、岐阜県キャンプ協会の設立に尽力されました。岐阜県キャンプ協会をはじめ、県内の指導者研修会において、キャンプカウンセリングや対象者理解についての講師を務めるなど、指導者の育成に貢献されています。岐阜県キャンプ協会の役職としては、長年理事の任につき協会運営に携わっておりましたが、現在は、組織運営を若手に委ね、顧問として協会のさらなる発展を支援しておられます。

（推薦団体：岐阜県キャンプ協会）

## 愛知キャンプカウンセラー協会

愛知県キャンプ協会 団体会員

1958年（昭和33年）に愛知県立初の野外教育施設「相楽山荘」が開所し、県教育委員会主催でキャンプ事業が行われ、愛知県キャンプ協会初代理事長の山本徹先生が中心となり、キャンプカウンセラーとして活動する大学生を中心に1963年（昭和38年）愛知キャンプカウンセラー協会が設立されました。その後県内にいくつかのキャンプ指導者団体が設立され、各団体が交流し、切磋琢磨してキャンプ指導技術を高め合うようになりましたが、常にリードしてきたのが愛知キャンプカウンセラー協会です。1983年（昭和58年）に愛知キャンプカウンセラー協会を中心に設立されたのが愛知県キャンプ協会であり、愛知キャンプカウンセラー協会は、今でも県内野外教育施設で活躍するなど愛知県のキャンプ指導者をリードする団体です。

（推薦団体：愛知県キャンプ協会）

## 柳澤 傳 氏

京都府キャンプ協会 理事

長年にわたり京都府内のキャンプならびに青少年の育成に努力され、指導的なお働きをされてこられました。そして現在も教育機関やキャンプ関連団体で役員としてのみならず指導者として多大なご貢献をされておられます。特に40年を越えるボーイスカウト運動では、カブ隊長・シニア隊長・ローバー隊長等から地区コミッショナー、京都府連盟の理事長を歴任され現在も副連盟長の重責を担われ、全国運動も多く担われてこられました。また、京都市の施設であり、市内のみならず京都の中核的な野外活動施設である花背山の家の開設準備から中心的な役割を果たされ、開設後には所長として、更には参与として運営されました。それぞれのお働きから、京都連盟有功賞、教育功労賞も受賞されています。京都府キャンプ協会では、長年にわたり理事、監事としてお働きをいただき、役員会やセミナーなどにおきましても、常にご指導をいただき、行政やボーイスカウトなどの団体との連携ならびに次世代の指導者育成に力を注いでいただいています。大きなご奉仕に、指導者一堂励まされています。

（推薦団体：京都府キャンプ協会）

## 認定NPO 法人大東市青少年協会

大阪府キャンプ協会 団体会員

大東市青少年協会様は、青少年の健全育成を目的として昭和45年に設立、2020年に50周年を迎えられました。事業内容は広範囲で、大東市立野外活動センター及び青少年ルームを施設管理者として運営し、野外活動を中心とした青少年体験活動推進事業、青年リーダーを育成する指導者養成事業、子ども会活動の支援事業や「子供の居場所づくり」事業等を実施、また近年では学校教育の中に体験活動が導入されるように力を入れ、一人でも多くの青少年が自然を感じ自然とともに生きる体験を通して、健全育成が進められるよう活動しておられます。50年の歴史と認定NPO法人としての社会的役割を十分認識し、信頼され期待される協会づくりを目指し、全力をあげて取り組んでおられます。

（推薦団体：大阪府キャンプ協会）

## 清水 勲夫 氏

兵庫県キャンプ協会 元副会長 現理事

1969年、(財)野外活動協会(OAA)の学生ボランティアリーダーとして勤労青少年育成の野外活動、キャンプ事業に関わり卒業後、奉職。県内の野外活動の普及・振興にも尽力され、兵庫県キャンプ協会設立(1988年)時も、県内行政機関・関係団体等との調整や取りまとめを担われるなど、大きなリーダーシップを発揮されました。以来、30余年の永きに亘り、県協会事務局長、副会長の要職を務め、次世代の育成、県内の関係団体や施設への運営助言、地域活性化の推進にも尽力されました。氏の幅広く深い知見による実践的な集団組織論、特にグループワークやリーダーシップ論は、大学での講義、講習会や講演でも好評で、現在も兵庫県教育委員を務められるなど、青少年育成の専門家として活躍中です。日本キャンプ協会では、運営委員やディレクター認定事業にも関わるなど、県内外でキャンプの普及に貢献されてこられました。現在も県協会理事として、協会運営全般にわたって助言、サポートをいただいています。

(推薦団体：兵庫県キャンプ協会)

## 雑賀 康夫 氏

島根県キャンプ協会 副理事長

雑賀康夫氏は1995年2月1日に日本キャンプ協会公認キャンプインストラクターを取得されるとともに島根県キャンプ協会に加入されました。その後、2002年に「キャンプディレクター1級」となられ、島根県キャンプ協会の副理事長として、県のキャンプ協会の発展に寄与されました。その間、島根県キャンプ協会の「インストラクター養成講習会」の担当者として、幾多のインストラクター養成を図ってこられました。また、2015年の(公社)日本キャンプ協会地域支援プログラム(海と山のコラボ自然体験活動中国・四国ブロック大会三瓶会場)のプログラムディレクターとして中心的役割を担い、成功裏に終えられました。現在も「インストラクター養成」、「会員スキルアップ事業」に勤しまれ、協会運営に尽力いただいております。

(推薦団体：島根県キャンプ協会)

## 奥田 祐子 様

広島県キャンプ協会 理事 中国・四国ブロック元理事

広島県キャンプ協会の発足当時は基より、その前身となる広島県野外活動協会の時代から30年以上の長年に渡り野外活動の振興に努めるとともに、過去、中国・四国ブロック理事も務められたキャンプ指導者の第一人者です。近年では、「これからキャンプ」と称し、県内指導者とともに時代を見据え、これからのキャンプの在り方を考察する事業を展開し、推進してこられました。また、「チャレンジ体験スクール」では、毎年、小学校1年生から高校2年生までの参加者約100名と大学生スタッフ30名、本部スタッフを加えた総勢約140名が年間を通じてキャンプ活動等を行うなど子どもたちの成長と次世代の指導者の育成に尽力した功績は計り知れないものがあります。

(推薦団体：広島県キャンプ協会)

## 白垣 伍男 氏

佐賀県キャンプ協会 元副会長 九州・沖縄ブロック元理事

会社員時代に職場で軽スポーツに取り組んだことをきっかけにレクリエーション、野外活動の世界に足を踏み入れ、経歴は50年以上。ユニークなキャラクター、人を引きつける魅力あふれる存在として、長く佐賀県内の野外活動指導者の中心的存在として活躍されました。佐賀県レクリエーション協会理事長として活動する傍ら、2002年、佐賀県キャンプ協会理事長急逝に伴い後任の理事長に就任され、理事会の活性化や事業展開を行い、佐賀県協会を牽引してこられました。2008年には九州・沖縄ブロックからの推薦により、日本キャンプ協会理事に就任し、未設置県だった宮崎県キャンプ協会設立にも尽力されました。2009年に文部科学省生涯スポーツ功労者表彰も受賞しております。

(推薦団体:佐賀県キャンプ協会)

## 工藤 福成 氏

大分県キャンプ協会 会長

ボーイスカウトやシェアリングネイチャーの指導に長年従事するとともに、2005年大分県キャンプ協会初代理事長として発足に尽力し、その後2017年より同会長として、普及や啓発ならびに県内支部設立に中心的な役割を果たしてきました。さらに、学校教育や社会教育においても、環境保護や防災対策を取り入れた教育キャンプを企画し、指導的な役割を果たしています。また、設立当初より日本キャンプ協会社員を務めるとともに、NCAJ地域連携委員会委員、九州選出委員を二期歴任され、地域活動でも、子ども食堂支援や県地球温暖化防止推進委員・市社会福祉協議会理事・環境省地球温暖化防止コミュニケーター・県ボランティア連絡協議会副会長・市ボランティア連絡協議会会長を務めるなど、多大な貢献をされております。

(推薦団体:大分県キャンプ協会)

## 池本 要 氏

宮崎県キャンプ協会 会長

池本要氏は、中学校教師の傍ら、26歳(1968年)でボーイスカウトの指導者になられて以来、毎年スカウトキャンプを実施してこられました。また、学校ではキャンプが余り注目されていなかった頃、思いとどまるようにと反対される学校長を説得して、自分のクラスの生徒のキャンプを企画・実施したエピソードがあるくらい、キャンプ活動に情熱を注がれました。池本氏は、国立等の青少年教育施設において専門職員としてキャンプの企画・運営・指導に関わってこられ、健全な青少年はもとより、不登校や発達障害のある子ども、経済的困窮家庭の子どもを対象とした教育キャンプを長年にわたって企画・実施してこられました。また、2003年(平成15年)に日本ボーイスカウト宮崎連盟理事長に就任され、現在に至るまでボーイスカウト運動を通してキャンプをはじめとする自然体験活動の普及に尽力しております。一方、「九州でキャンプ協会が設立されていないのは宮崎県だけである。」という情報を得られるや否や直ちに有志に呼びかけられ、2009年(平成21年)に宮崎県キャンプ協会を設立、初代会長に就任されて以来、80歳になられる現在も宮崎県におけるキャンプ活動の振興発展に貢献されております。

(推薦団体:宮崎県キャンプ協会)



受賞者の皆様（一部）

公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 役員

(2022年3月31日現在)

名誉会長	酒井 哲雄	元・頌栄保育学院 理事長
顧問	斉藤 保夫	元・城西大学 教授 (2021年8月逝去)
顧問	富岡 幸生	元・(一財)日本健康開発財団 専任講師
顧問	野間口 英敏	元・東海大学 教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長
顧問	野澤 巖	元・埼玉大学 教授
顧問	永吉 宏英	元・大阪体育大学 学長
顧問	石田 易司	元・桃山学院大学 副学長
顧問	吉田 大郎	元・(公社)日本キャンプ協会 事務局長 (2021年3月退任)
顧問	星野 敏男	元・(公社)日本キャンプ協会 会長
顧問	神崎 清一	元・(公社)日本キャンプ協会 副会長
代表理事 会長	平田 裕一	至学館大学 教授
業務執行理事 (4名)		
副会長	藤枝 隆	東京農業大学 農学部 事務部長
専務理事	今井 正裕	大阪府キャンプ協会 副会長 (近畿ブロック) / (一財)大阪府青少年活動財団 事業部長
常務理事	高見 彰	大阪国際大学 教授・兵庫県キャンプ協会 会長
常務理事	野口 和行	慶應義塾大学体育研究所 教授
理事	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長 (2021年6月退任)
理事	大久保 秀人	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長 (2021年6月就任)
理事	重住 恭子	(公社)ガールスカウト日本連盟 副会長
理事	鈴木 由美	女子美術大学他 非常勤講師
理事	高野 孝子	(NPO)エコプラス 代表理事
理事	田口 努	(公財)日本YMCA同盟 総主事
理事	田中 廣喜	NHK首都圏局メディア展開部 チーフプロデューサー
理事	中村 正雄	大東文化大学教授・埼玉県キャンプ協会常務理事
理事	針ヶ谷 雅子	明治大学等 兼任講師
理事	平野 吉直	信州大学 教授
理事	柳下 史織	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部 統括責任者
理事	下川原 清貴	北海道キャンプ協会 事務局長 (北海道・東北ブロック)
理事	堀口 芳嗣	埼玉県キャンプ協会 副会長 (関東ブロック)
理事	鈴木 保宏	三重県キャンプ協会 会長 (中部・北陸ブロック)
理事	高田 和宜	山口県キャンプ協会 副理事長 (中・四国ブロック)
理事	大橋 光雄	福岡県キャンプ協会 名誉会長 (九州・沖縄ブロック)
		理事 以上 20人
監事	井上 透	岐阜女子大学 教授
監事	小田原 一記	(公財)日本レクリエーション協会 専務理事・事務局長
監事	佐藤 初雄	(NPO)国際自然大学校 理事長
		監事 以上 3人

公益社団法人日本キャンプ協会 2020・2021年度 運営委員

(2022年3月31日現在)

執行理事会

役 職	氏 名	役職・勤務先役職
会 長	平田 裕一	代表理事 / 至学館大学教授
副 会 長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
専務理事	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
常務理事	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
常務理事	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
理 事	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
理 事	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
総務委員	神谷 稔	日本キャンプ協会総務委員 / 日本アウトワード・バウンド協会事務局長

(公1) ビジョン推進委員会 (旧ビジョン2020推進委員会)

委員長	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委 員	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
委 員	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
委 員	田丸 良明	石川県キャンプ協会 事務局次長
委 員	引間 紀江	(独) 国立女性教育会館 専門職員
委 員	吉松 誠一郎	佐賀県キャンプ協会 理事長

(公1) CAMPING 編集委員会

委員長	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委 員	青木 康太朗	國學院大学 准教授
委 員	翠尾 由美	港区立麻布子ども中高生プラザ 副館長
委 員	山梨 雄一	(公財) 東京YMCA
委 員	山本 直輝	(公財) ハーモニイセンター 理事 事務局長補佐
委 員	吉松 梓	新潟医療福祉大学 講師

(公1) 朝霧野外活動センター運営委員会

委員長	星野 敏男	日本キャンプ協会顧問 / 明治大学教授
委 員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委 員	井出 暢一	朝霧野外活動センター 所長
委 員	齋藤 祐幸	朝霧野外活動センター 副所長
委 員	櫻井 良樹	朝霧野外活動センター 事業課長
委 員	太田 正義	朝霧野外活動センター コーディネーター

(公2) 指導者養成委員会

委員長	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
委 員	遠藤 知里	常葉大学短期大学部准教授
委 員	富山 浩三	大阪体育大学教授
委 員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委 員	吉田 理史	(一社) SATOYAMAそだち 代表

**(公2) 教員免許状更新講習タスクチーム**

委員長	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
委員	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委員	高見 彰	業務執行理事、公2担当理事 / 大阪国際大学教授
委員	鈴木 由美	業務担当理事 / 女子美術大学非常勤講師
委員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委員	青木 康太朗	國學院大學准教授

**(公3) 日本キャンプミーティング実行委員会**

委員長	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
委員	熊澤 桂子	東京教育専門学校専任講師
委員	中丸 信吾	日本女子体育大学講師
委員	佐藤 冬果	東京家政学院大学助教
委員	石川 大晃	アクトインディ(株)新規事業開発部

**(公3) 安全対策委員会**

委員長	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委員	甲斐 知彦	関西学院大学教授
委員	寺田 達也	ひの社会教育センター地域コミュニティ部次長
委員	鈴木 千琴	済生会横浜市東部病院
委員	稲垣 尊仁	森・濱田松本法律事務所

**(公3) キャンプ白書編集委員会**

委員長	青木 康太朗	國學院大學准教授
委員	佐藤 冬果	東京家政学院大学助教
委員	中丸 信吾	日本女子体育大学講師
委員	福富 優	至学館大学短期大学部助教
委員	吉松 梓	新潟医療福祉大学講師

**(法人総務) 設立55周年作業部会**

委員長	野口 和行	業務執行理事、公3担当理事 / 慶應義塾大学教授
委員	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
委員	今井 正裕	業務執行理事、公1担当理事 / 大阪府キャンプ協会副会長
委員	中村 正雄	業務担当理事 / 大東文化大学教授
委員	向島 克明	朝霧野外活動センター職員・地域連携委員

**(法人総務) 総務委員会**

委員長	藤枝 隆	業務執行理事、法人総務 / 東京農業大学農学部・事務部長
委員	神崎 清一	日本キャンプ協会顧問
委員	神谷 稔	日本キャンプ協会運営委員

(法人総務) 地域連携委員会

委員長	藤枝 隆	日本キャンプ協会副会長
委員	佐東 治	(北海道・東北ブロック) 山形県キャンプ協会副会長
委員	高橋 淳	(関東ブロック) 栃木県キャンプ協会理事長
委員	向島 克明	(中部・北陸ブロック) 静岡県キャンプ協会理事
委員	蓬田 高正	(近畿ブロック) 奈良県キャンプ協会常務理事
委員	廣見 美佐	(中国・四国ブロック) 高知県キャンプ協会事務局
委員	築山 泰典	(九州ブロック) 福岡県キャンプ協会

日本キャンプ協会事務局職員

事務局長	依田 智義 (全体統括)
事務局次長	秋山 千草 (法人事務)
職員	松橋 由起 (CAMPING・広報・ビジョン推進事業)
職員	高橋 宏斗 (指導者養成・キャンプミーティング)
パートタイマー	横浜 智美 (会員管理)

静岡県立朝霧野外活動センター職員

所 長	井出 暢一	副 所 長	齋藤 祐幸
コーディネーター	太田 正義	事業課長	櫻井 良樹
指導職	保科 哲也	指導職	向島 克明
指導職	小西 岳勝	指導職	立林 雅貴
指導職	北條 友加里	指導職	西原 健太
アルバイト	杉山 奈都子	アルバイト	大崎 健太
アルバイト	笠井 久美子	アルバイト	小川 真由子

(2022年3月31日現在)



**NCAJ**

National Camping Association of Japan

〒151-0052  
東京都渋谷区代々木神園町3-1  
国立オリンピック記念青少年総合センター内  
TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504  
E-mail:ncaj@camping.or.jp  
URL:<https://www.camping.or.jp>